

歴代会長

初代	青山 近蔵	八代	横光 時寛
二代	香林 静豊	九代	三枝 光雄 (～昭和35年頃)
三代	花田 友三郎	十代	秋山 茂 (～昭和63年)
四代	稲垣 次朗	十一代	清水 隆 (～平成6年)
五代	笹本 武一 (昭和14年頃)	十二代	今井 定信 (～平成20年)
六代	関口 市五郎 (昭和16年頃)	十三代	青木 平四郎 (平成20年～)
七代	三木 義久		

わが町の変遷

◇中世から江戸時代◇

中野は、室町後期、小田原北条氏の支配するところとなったが、後の中野村名主となる堀江家がすでに小代官として任命されている。江戸時代は天領として青梅街道中野宿として栄え、中野村は他の村々の100石から400石に比べ、2,000石という大きな村であった。名主の堀江家は本三宮前町会の青梅街道筋に面していたと伝えられる。そして町会内の宝仙寺は、源義家が奥羽平定後大宮八幡の別当寺として建立したという由緒ある寺で、わが町との繋がりは昔より深い。

現在、町会集会所である明徳会館は、堀江家の屋敷の北東鬼門除けとして建立された明徳稲荷神社の境内にある。明徳稲荷神社及び社地は、代々中野村の名主として栄えて来た堀江家より、大正時代に地元の人々が譲り受け、現在は本三宮前町会が管理している。

◇明治から戦中◇

明治維新後、直後は目まぐるしく伊豆斐山・品川・神奈川・東京府と管轄が変動したが、明治10年東京府東多摩郡となり、村役場は宝仙寺境内に置かれた。明治10年に中野町となったが、そのまま村役場は宝仙寺境内に置かれた。現在、境内には役場跡の石碑がある。また中野区・杉並区で最も歴史がある桃園小学校は、明治8年に宝仙寺本堂を仮教場として開校した。明治から大正中頃にかけて、青梅街道沿いを除いて、一面の畑であり人口も少なかった。町会という結びつきが出来たのは、大正10年頃と云われている。関東大震災後、人口増加が激しく、昭和4年に地番改正が行われて、続く昭和7年中野区の誕生により、旧字宮前は宮前町となり、本町通りも一丁目から六丁目と新しい町名となった。昭和6年の満州事変以後、戦時体制の中、町会は官製の組織に組み込まれてゆく。昭和14年には、区域整備の結果、宮前町会と本町三丁目町会が合併して中央町会となったが、昭和18年には再び分割されている、当時の町会役員は、東京市町会事務員として月給70円を支給されており、翼賛町会として体制に組み込まれていた。

◇戦後、新しい出発◇

昭和20年、宮前町会と本町三丁目東町会が合併して、本三東宮前町会となったが、昭和22年GHQの政令十五号後は、「電灯会」という名称で町会組織をkaroujite守り続けた。昭和27年新たに「本三宮前町会」と再出発し、今日に至っている。

町会の特色

8班90組で組織され、公式世帯数は2,390（平成28年度現在）

町会内に実践学園・宝仙学園・堀越学園等ある学園の町で、中野警察署や区立公園4カ所を擁する。

町会の活動

地縁法人として適正な運営に務め、明徳会館を拠点に、総務部、防犯部、防火部、交通部、青少年部、厚生福祉部、地域環境部、祭典企画部、女性部の各部が地域の発展のために活動を行っている。年間最大行事は9月に行われる連合祭礼で、青梅街道を封鎖して行われる連合渡御は壮観である。三角公園で同時期に開催される夜店は30年以上の歴史があり、メインのビンゴ大会参加者は毎年1,000人を超える。

